

普及だより

中予地方局農業振興課

地域農業育成室・産地戦略推進室

〒790-8502 松山市北持田町 132 番地

tel (089) 909-8762

伊予農業指導班 〒799-3122 伊予市市場 127 番地 1

tel (089) 982-0477

久万高原農業指導班 〒791-1202 上浮穴郡久万高原町入野 263 番地

tel (0892) 21-0314

ホームページアドレス <https://www.pref.ehime.jp/chu52109/chuyo/index.html>

令和6年2月発行



～さといもの産地振興に取り組んでいます～

■機械化体系による省力化の推進

中予管内では、さといもの栽培面積が 11.3ha と近年急速に拡大しており、規模拡大を志向する農家の増加も見込まれることから、機械化体系の検討も行っています。

そこで、県農林水産研究所と連携して、さといも栽培農家を対象にドローン防除実演会を開催しました。参加した農家はドローンの実用性を体感し、「短時間で作業できるドローン防除に興味を持った」「株元まで薬液が付着することが確認できた」等の声が聞かれ、ドローンの防除効果に関する理解を深めることができました。また、先進地である西条市の農事組合法人で収穫機による掘り取り作業の省力化について視察研修を行いました。

今後は、機械化体系による栽培を推進し、産地の拡大を目指します。



ドローン防除実演会



収穫機による掘り取り作業の実演

■「媛かぐや」の産地振興

伊予農業指導班は、伊予地区において、甘みがあり、ほくほくした食感が特徴の愛媛県オリジナル品種のさといも「媛かぐや」の産地振興を進めています。「媛かぐや」は、既存の「愛媛農試 V2 号」(伊予美人)と比較して、芋の形が大きく加工適性に優れ、収益性が高いことが特徴ですが、安定生産や消費者への認知度など課題もあります。そのため、今年度は、セル苗密植栽培の導入、「愛媛農試 V2 号」との混植栽培実証、需要創出等に取り組みました。

今後は、栽培面積の拡大と合わせて、優れた加工適性を活かした加工・流通体制の構築と販促活動による商品 PR に努め、産地振興を図っていきます。



収穫された「媛かぐや」



店頭販売で商品 PR

柑橘基盤整備園での土づくりを啓発（地域農業育成室）

中予管内では8地区で柑橘の樹園地整備が進められており、地域農業育成室は営農計画の策定や造成地での土づくり、早期成園化等を支援しています。

今年度、工事に着工した松山市浅海原地区では、土づくりへの意識を高めるため、受益農家を対象に研修会を実施しました。研修では、基盤整備先行地区（松山市下難波地区）の土壌調査結果や、緑肥による土づくり及び表土流亡防止実証の報告と併せて、現地の土壌と緑肥（ソルゴー・クロタラリア等）を持ち込み、現物を見せながら説明しました。

農家は、造成地での堆肥投入前後の土壌や緑肥を直に見ることで、土壌改良の効果を実感することができ、土づくりの必要性を再認識しました。また、農家からは、「緑肥を活用した土づくりに取り組みたい」との意見が聞かれました。



土づくり研修会（浅海原地区）



堆肥投入直後の浅海原基盤整備地区
(○投入した堆肥)

暑さに負けず「ひめの凜」好成绩（伊予農業指導班）

伊予地区における県オリジナル水稲新品種「ひめの凜」は、5月下旬から田植が始まり、10月24日に収穫が終了しました（栽培面積62ha、認定栽培者75人）。

県では「ひめの凜」の品質・食味を確保したブランド化を図るため、認定栽培者による作付けを推進しており、栽培者等を対象にした作付事前講習会や中干講習会等を通じて、高品質生産に取り組んでいます。

今年は8月下旬の出穂期以降気温が高く、特に9月は平年より2.7℃高く、非常に高温で推移したことから、品質低下が懸念されましたが、高温耐性を有する「ひめの凜」では、美味しさ基準のハイクオリティ以上の格付けを出した栽培者が全体の83%（うちプレミアムクオリティを出した栽培者は58%）と好成绩となりました。

「ひめの凜」に対する消費者の関心も年々高くなっています。生産者の皆さん、プレミアムクオリティを目指して「ひめの凜」の栽培を始めてみませんか！



穂肥診断による適正な施肥指導



収穫中の「ひめの凜」

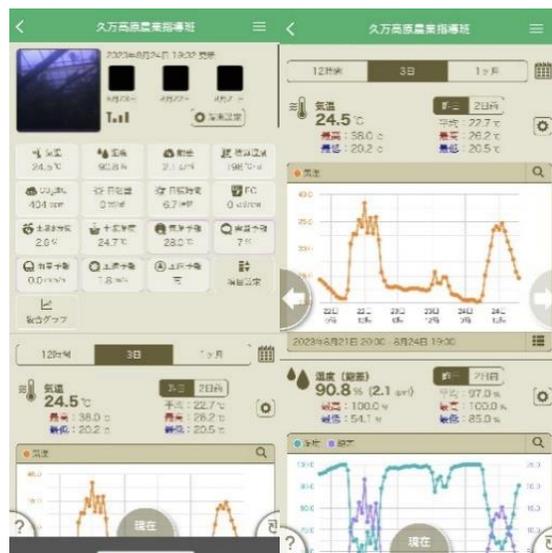
クラウドセンシングを活用した雨よけトマトの栽培管理 (久万高原農業指導班)

夏秋トマト栽培においては、施設内の温度管理や土壌水分管理を適切に行うことが重要ですが、収穫が始まると、きめ細かい管理が難しくなってきます。そこで、当班では、実証ほ場の施設内にクラウドセンシングを利用した環境モニタリング装置（商品名：みどりクラウド）を設置しました。

この装置により施設内の温度、湿度、CO₂濃度等の環境データがクラウド上で蓄積され、タブレットやスマホでいつでも確認、分析することができます。このように「見える化」した環境データをもとに、より最適な栽培管理方法を検討していきます。



圃場に設置した環境モニタリング装置

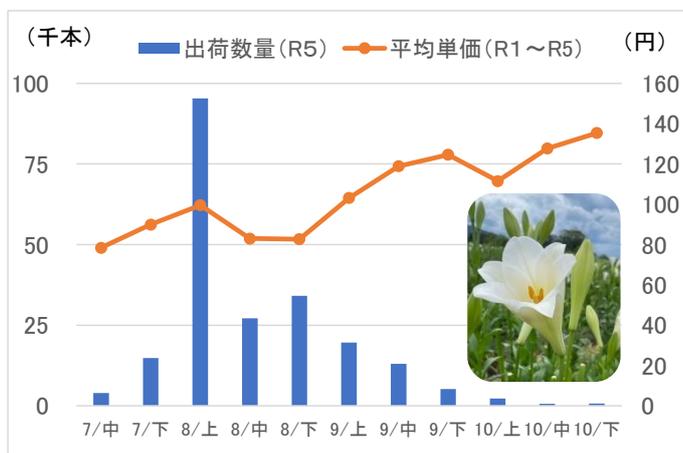


スマホの画面でデータを確認

シンテッポウユリの安定生産を目指して（産地戦略推進室）

お盆やお彼岸にお供えする花として人気が高いシンテッポウユリは、東温市や松前町で栽培されており、全国有数の産地となっています。彼岸前（9月）の需要期には、高単価で取引されますが、定植後の高温等により栽培が難しく、安定生産技術の確立が求められています。

そこで、産地戦略推進室では JA 松山市と連携し、今年度から彼岸出荷に適する品種の選定や苗冷蔵処理による適期出荷技術の実証に取り組んでいます。また、久万高原農業指導班では、高冷地における栽培適応性を検証するため、定植時期及び品種について試験栽培を行いました。今後も JA と連携して調査するなど、彼岸時期の安定生産技術の確立を目指します。



期間別出荷数量と平均単価



苗冷蔵処理による実証
(○ 実証区：彼岸までに収穫が終了)

農事功績表彰「緑白綬有功章」を受章 ～松山市 野本貢さん～

松山市吉藤の柑橘専作農家 野本貢さん(72歳)が、令和5年度の農事功績表彰者に決定し、11月15日に東京都内にて秋篠宮殿下下御臨席のもと行われた表彰式で、緑白綬有功章を受章しました。

この表彰は、公益財団法人「大日本農会」により農業改良や地域農業の発展に貢献した農事功労者に対して行われる歴史あるもので、107回目となる今年度は全国で63名の方が表彰されました。

野本さんは長年にわたり、宮内伊予柑の高品質・安定生産技術の実践により産地発展に寄与した他、「せとか」「不知火」「紅まどんな」等の優良中晩柑の導入や地域での普及推進、多彩な農業研修生受入れ等による次世代の担い手育成などに大きく貢献したことが高く評価され、今回の受章となりました。



表彰式での野本貢さんご夫妻



優良中晩柑の産地化に貢献

多様な人材を活用した労働力確保対策 ～求人アプリで雇用の確保～

農業従事者の減少と高齢化が進む一方で、担い手においては農地集積による規模拡大で、農繁期の労働力不足が顕著となっています。

そうした中、(株)KIRIが運営するアルバイト人材のマッチングアプリ「AIagri.」はR5年度のリピート率が90%超と良好であることから、地域農業育成室は必要に応じ労働力確保に悩む農家に紹介するなど、労働力確保手法の普及やJA・行政・民間の人材紹介会社等との関係機関連携強化に努めています。

このほか、民間による人材マッチングとして、松山市興居島地区では、Kamakura Industries株式会社の運営する「daywork」の運用が開始されたほか、(株)VOCEが主催する有償ボランティアというスタイルで求人できる「愛媛お手伝いプロジェクト」が松山管内で広がりつつあります。当室は、引き続き被雇用者の要望に応じながら、労働力を安定して確保できる環境を整えることで、持続的な農業経営の実践を後押ししていきます。



作業中のアルバイト



「愛媛お手伝いプロジェクト」の取組みを関係機関に紹介